



天満宮

臨時会報

平成25年11月

対談 ● 行幸始祭再興

京都大学名誉教授 上田 正昭・北野天満宮宮司 橘重十九

特集 ● 寛弘元年一條天皇 行幸始祭 再興記念特集

行幸始祭 再興主旨／行幸始祭 祭典



天神信仰発祥の社 全国天満宮の宗祀（総本社）北野天満宮	1
行幸始祭再興に寄せて	2
平安神宮宮司 九條 道弘	
行幸始祭再興に寄せて 「心を癒す一盃のお茶」	3
裏千家大宗匠 千 玄室	
行幸始祭再興に寄せて	4
石清水八幡宮宮司 田中 恆清	
菅公の御遺言	5
太宰府天満宮宮司 西高辻信良	
甦る行幸始祭 —— 一條天皇始めて北野社に行幸、北野祭	6
一條天皇行幸始祭	8
皇室と北野天満宮	10
北野の「三年一請会」と禁裏駕輿丁	13
〈対談〉平安京と天神信仰 京都大学名誉教授 上田 正昭・北野天満宮宮司 橘 重十九	14
未完の『北野天神縁起絵巻』平成の復元・白描下絵の彩色	19
北野天満宮千年 大萬燈祭の記録	20
御挨拶	24
北野天満宮宮司 橘 重十九	



天神信仰発祥の社

全国天満宮の宗祀（総本社）北野天満宮



楼門の額「文道大祖 風月本主」
大正十年奉納・古代樺の丸彫り



菅公 御神影

北野天満宮は、文人・貴族右大臣菅原道真公（菅公）の御神霊を、神としてお祀りした天神信仰発祥の地、全国にある約一万二千社の天満宮・天神社の宗祀の社（総本社）です。
桓武天皇により遷都された平安京。都には怨霊・御霊信仰が流行、とくに左大臣藤原時平の讒言により九州大宰府に左遷され、大宰府の配所で薨去された菅公の御霊は、都の皇族・貴族等に怨霊として恐れられます。

天慶五年（九四二）西ノ京に住む多治比文子に、「北野の右近の馬場に祀るよう」託宣が下り、さらに四年後近江国比良宮禰宜神良種の子太郎丸に再度託宣が下るにおよび、朝日寺僧最鎮らの協力により天暦元年（九四七）、都の乾・北野の地に神殿を造立し、その神霊を鎮めたのが北野社の創建です。

しかし、その間も道真公の祟りとされる事件が勃発します。天変地異・異常気象、左大臣時平とその一族の相次ぐ死去、ついには清涼殿に落雷などの変異に、人々は菅公・雷神の祟りと噂するようになります。

藤原家では、道真公と親交があった時平の弟・忠平卿が摂政・関白を歴任、その子右大臣師輔卿は天徳三年（九五九）九條家の繁栄を願い北野社の大規模な社殿の造営、宝物の奉納を行います。さらに孫の藤原兼家卿は永延元年（九八七）「北野宝殿」を修造するなど北野社への庇護・崇敬は続き、北野社は藤原摂関家を守護する神・撰録神せんろくしんとなりました。

永延元年八月五日、一條天皇により始めて北野祭は朝廷の崇敬を受け勅祭となります。これは道真公を公的に「天満天神」という「神」としたことを意味しており、さらに正暦二年、北野社は朝廷が特に信仰する二十二社の一社として祈年祭、国家の大事に行われる臨時祭に奉幣に預かる重要な社となります。

一條天皇は正暦四年（九九三）、道真公に正一位左大臣を贈位され、八月二十日安楽寺（御墓所、後の太宰府天満宮）に勅使を遣わされ、御霊は平安京を鎮める御神霊として北野に迎えます。北野祭が「官祭」とされて以来、道真公の祟りをなすことは次第に見られなくなり、菅公薨去より百年の年月をかけ、怨霊とされた菅公の霊は、やがて皇室・皇城鎮護の神としてその御神威が昂められていきました。

平安末期以降、各地に菅公ゆかりの天神社が創建されていきます。鎌倉時代には、人々を守護する神への変化、室町時代、足利幕府の庇護を受け、北野社の社領は二十四か国、八十か所に亘り、その地に天神社が建てられていきました。

歴史上の人物であった菅公は、「文道の大祖 風月の本主」と讃えられ、その精神は、日本人の感性に受け継がれ、学問・和歌・連歌等の神と崇められます。

江戸時代には、天神信仰は寺子屋の普及とともに全国に広められ、書道の上達、学問の成就が祈られ、現代では入試・受験の神として人々に信仰されています。



行幸始祭再興に寄せて

平安神宮 宮司 九條道弘

毎月二十五日の縁日に境内が多くの参拝者で賑わう北野天満宮は、「学問の神さま」「北野の天神さん」の愛称で広く親しまれている。天神信仰発祥の地として、京都のみならず全国から参詣の人が今も絶えない。数多くの大社や名刹を擁する京都の中に於いて、最も代表的なお宮の一つである。

天徳三年（九五九）、九條家の祖である兼実公から八代遯る師輔公による社殿の増築、神宝の安置があった。志半ばで薨去された菅原道真公の怨霊を鎮める為に、現在のようなかたちで北野天満宮が創建されたのは衆目の一致するところである。

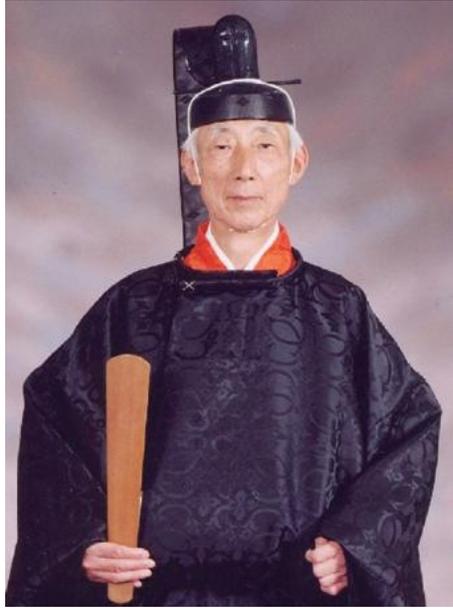
爾来、時の移ろいと共に天神信仰はそのかたちを変えながら興隆を見せた。歴代天皇を始めとする朝廷や大名、町衆に至るまで上下貴賤を問わず信仰を集め続け、現在では全国に約一万二千社を数える。この間、度重なる戦乱や災害に見舞われながらも、ここまで発展を遂げたのは生涯「至誠」を貫かれた道真公の御神徳の賜物であろう。

私の奉務する平安神宮は、延暦十三年（七九四）に四海平安の祈りを込めて平安京を定められた第五十代桓武天皇と、近代日本の礎を築かれ、平安京有終の天皇である第百二十一代孝明天皇の御二柱を祭神とする。平安京はこの両祭神の間、千有余年に亘り日本の国都であり続け、我が国固有の文化のほとんどはこの京都の地で生まれ、発展を遂げてきた。

長い年月をかけて培われてきた文化、伝統を無くすことは簡単であるが、一旦途絶えてしまふと、これを復活させることは難しい。北野天満宮が昭和二十三年まで連綿と受け継がれてきた祭儀を、この度六十数年振りに復活させることには大変なご苦勞があったものと拝察する。

永延元年（九八七）、北野天満宮で勅祭を初めて斎行された第六十六代一條天皇の行幸を記念して始められた祭儀を、情熱を以て再興させた橘宮司を始めとするご関係各位には、撰関家末裔の端に名を連ねる身として深甚の敬意を表したい。

（九條撰関家）





行幸始祭再興に寄せて 「心を癒す一盃のお茶」

裏千家 大宗匠 千 玄室



千玄室 プロフィール

大正十二年京都府生。同志社大学法学部経済学科卒業。ハワイ大学修学。韓国中央大学大学院博士課程修了。哲学博士。文学博士。昭和三十九年千利休居士十五代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成十四年嫡男に家元を譲座し、千玄室に改名。「一盃からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。文部省社会教育審議会委員、中央教育審議会委員等の公職を歴任。

現在の主な役職にユネスコ親善大使、日本・国連親善大使（外務省）、ハワイ大学教授、公益財団法人日本国際連合協会会長、公益社団法人日本馬術連盟会長、文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE連邦独立勲章第一級等受章。

国内外で名誉市民、名誉博士号を多数受けている。

私の健康のもとは一盃の抹茶にあると常々申している。朝昼に必ず濃茶を静かにいただく。緑色の抹茶と相對する瞬間、あざやかな緑色が目を通じて心に入ってくる。ホッとした安堵感が生れる。また一口すするとに身体全体に活力がみなぎってくる。「貴方は茶の家の方だから、しかも家元という立場であったから当然でしょう」と言われればそれまでである。しかし、茶盃を持つときは、一人の人間になっている。

人間はどんな地位立場の人であろうとも裸のまま世に生れ出てきた。みんなが無垢で純白なままで成長すれば、世の中は真に平和であろうが、成長するにしたがい智慧が付き、垢が身についてくる。そうした虚仮（こけ）にまどわれたものを捨てて無の人にならなければならぬが、中々難しいことではある。しかし、茶室の中では世間的な地位などは関係無く、すべての人が平等である。そして、人と人が一体となるためにも、すすめ合う一盃の茶が主役になる。「いかがですか」「お先に」「どうぞ」こうしたすすめ合いの言葉で一盃をいただく時、そこには素直な無垢の自分がある。茶道は作法にのみ拘泥して難しいという人がある。こういう方にこそ、一盃のお茶で人間らしさを教える道の在り方を、是非とも理解していただきたい。

私は茶盃（丸い茶碗）を地球と思ひ両手にいただき、緑の茶と一体になる。地球に対する感謝、そして自然環境の緑を大切にする思いを持つのである。こうしたたった一盃のお茶だが、心を癒す糧にもなる。そして一盃を捧げ念ずることにより、少しでもこの世が明るく平和になればと願っている。今、世界中に蒔いた茶道の種の一粒一粒が育ち、花を咲かせるようになってきた。茶道を通じて「一盃からピースフルネスを」の目標が着実に捻りつつある。

（平成十四年齋行千百年大萬燈祭奉賛会長）

（北野天満宮講社 会長）



行幸始祭再興に寄せて

石清水八幡宮 宮司

田中 恆清

此の度の一條天皇行幸始祭ご再興されますこと心よりお祝い申し上げます。

本年は愈天皇陛下御治定の下、第六十二回神宮式年遷宮最大の重儀「遷御の儀」が執り行われるのを始め、歴史あるお社の慶事が相次いだ大変御目出度い年であります。

このような年に、我々もまた神道の在り方を再認識し連綿と続く歴史を睨と受け継ぎ、浄明正直の精神を以て祭祀の厳修に努めることが肝要であります。

そして祭祀とは国家の安寧・皇室の弥栄を祈ることと同義であるということは言うまでもありません。

「北野の天神さん」と広く親しまれ天神信仰の中心的御社なっております北野天満宮ですが、本来その御神威稜々たるや歴史の知るところでございます。しかし時を経るに連れ、如何なる運命に逢おうと至誠を貫いた慎ましくも凛とした菅公のご生涯はご仁愛に満ちた神様として朝野の崇敬を一身に集め、往生安寧や学業成就、至誠といった様々な信仰の形を生みました。

そのような多くの信仰形態を持つ「北野の天神さん」ですが、その中でも国家鎮護・王城守護の神として二十二社に列し格別の崇敬を受けたお社であるということは非常に重要な意味を持つことと存じます。そして、その嚆矢ともなったのが一條天皇の行幸でありましょう。

歴史的にも大変意義深いこの行幸を記念して齋行された重儀を再興させるということは、祭祀の精神を將に現出せしめたものであり、再興に至るまでの道程は時代との闘ぎ合いの中、多くのご苦労があられたことと拝察致します。

それでも尚、祭祀の現代的意義・歴史的意義を求め、至誠を以てこの一大事業を成し遂げられた橘宮司様を始め関係各位に深甚なる敬意を表しますと共にご盛儀を心より祈念致しお祝いの言葉とさせていただきます。

(京都府神社庁長)
(神社本庁総長)



菅公の御遺言

太宰府天満宮宮司

西高辻信良

聖上の万歳と、御皇室の弥栄を衷心より御念申し上げます。

北野天満宮におかれましては、六十有余年途絶えていた「一條天皇行幸始祭」の重儀の御再興、誠におめでたく、全国天満宮梅風会を代表致しまして、心よりお祝い申し上げます。

一條天皇が永延元年（九八七）に勅によって北野祭が始められ、「天満天神」の御神号が下賜されました。さらに、正暦四年（九九三）閏十月二十日、菅原道真公に太政大臣の極官が贈位され、ついに菅聖廟（太宰府天満宮）に一條天皇の勅使が遣わされ、勅祭が執り行われたのです。

太宰府天満宮は、道真公の御墓所として、御神霊の永久に鎮まる聖地として、天神信仰の核心をなしてきました。神の降臨を仰ぐ御社殿として創建されたのではなく、神が鎮まられた聖地に設けられた御社殿として、我が国の神社の中でも大きく異なつた歴史を歩むことになりました。道真公は、延喜二年（九〇二）十二月二十五日、京からの使者によって、夫人の逝去の知らせを受けられます。その驚きと悲しみが相俟つて、病はいよいよ重くなりました。

『北野天神御伝』は、延喜三年正月、道真公が次の御遺言をされたと記しています。

余見る、外国に死を得たらば、必ず骸骨を故郷に帰さんことを。思ふ所有に依りて、此事願はず。大宰府をはじめ京の外で死去した中央貴族の遺骨は、骨送使の手によって都へ運ばせています。しかし、道真公は、「思ふ所」によって、あえてそのことを願われませんでした。

延喜三年（九〇三）二月二十五日の暁、道真公は、大宰府の南館において五十九年の生涯を終えられました。謫居中も侍していた門弟の味酒安行は、御遺言の通りに道真公の御遺骸を守り、大宰府郊外の東北（丑寅）を指して進んでいきました。『帝王編年記』には、三笠郡四堂の辺りで、牛車が止まって動かず、そこに葬り奉つたのが太宰府天満宮の創始となります。

このように、菅聖廟（御墓所）と太宰府天満宮の鎮座の由縁は、縁起や託宣ではなくて、生前の道真公の強い御意志によるものであることが判るのです。

太宰府・北野両天満宮は、我が国の悠久の歴史の中で、天神信仰の双璧と称えられています。全国天満宮梅風会の会員神社を始めとする一万社を超す社と共に、菅公の御心を未来永劫に守り続けて参りたいと存じます。

（全国天満宮梅風会 会長）



甦る行幸始祭 一條天皇始めて北野社に行幸、北野祭

本年十月二十一日は、寛弘元年（一〇〇四）一條天皇が始めて北野社に行幸されました日より一〇一〇年に当たります。

この度、皇室の弥栄と尊崇を鑑み、また北野天満宮の創建以来の崇敬の歴史にとって重要な祭儀でありました「一條天皇行幸始祭」を再興することと致しました。

一條天皇には、永延元年（九八七）八月五日北野社に幣帛を奉られ、始めて北野祭を官祭として斎行され、御祭神菅原道真公に「北野天満大自在天神」の称号を賜りました。

藤原師輔卿によって天徳五年（九五九）造営された北野社は、その後永延元年藤原兼家によって「北野宝蔵」の修造がなされました。また三月、北野天満天神は皇太后（藤原詮子）に託宣され、一條天皇の春日行幸が果されるべき旨勧告されます。六月七日に伊勢神宮ほか、石清水・賀茂下上・松尾・平野・稻荷・春日・大原野・住吉・吉田と北野社に奉幣があり、爾来、祈念穀奉幣、祈雨奉幣、臨時御祈等に度々預かっております。

寛弘元年（一〇〇四）十月二十一日、御堂関白藤原道長の勧めにより一條天皇は始めて北野社に行幸されました。藤原時平の讒言を容れた醍醐天皇によって大宰府に左遷され、死後怨霊となった菅原道真公を祀る北野社に、天皇が行幸を行うということは、異例のことであり、北野の天神信仰にとっても重大な意味をもっていました。一條天皇の行幸は、この時の平野社・北野社行幸が最後という事になり、一條天皇が京を出られたのも、これが最後となります。また、これ以降、天皇の行幸される神社は石清水・賀茂・春日・平野・大原野・北野・松尾社の七社が踏襲され、さらに後三條天皇による日吉・稻荷・祇園社の行幸が行われ、それは新たに天皇権威の創生をもたらす出来事といえます。

北野社は朝廷が最も重要とし崇敬する二十二社の一つに加列され、北野社への天皇の行幸は、後一條天皇・後朱雀天皇・後冷泉天皇・後三條天皇・白河天皇・堀河天皇・鳥羽天皇・崇徳天皇・近衛天皇・二條天皇・高倉天皇・後鳥羽天皇、さらに後醍醐天皇他二十数回に及び、歴代天皇、藤原摂関家の篤い崇敬を受けてまわりました。

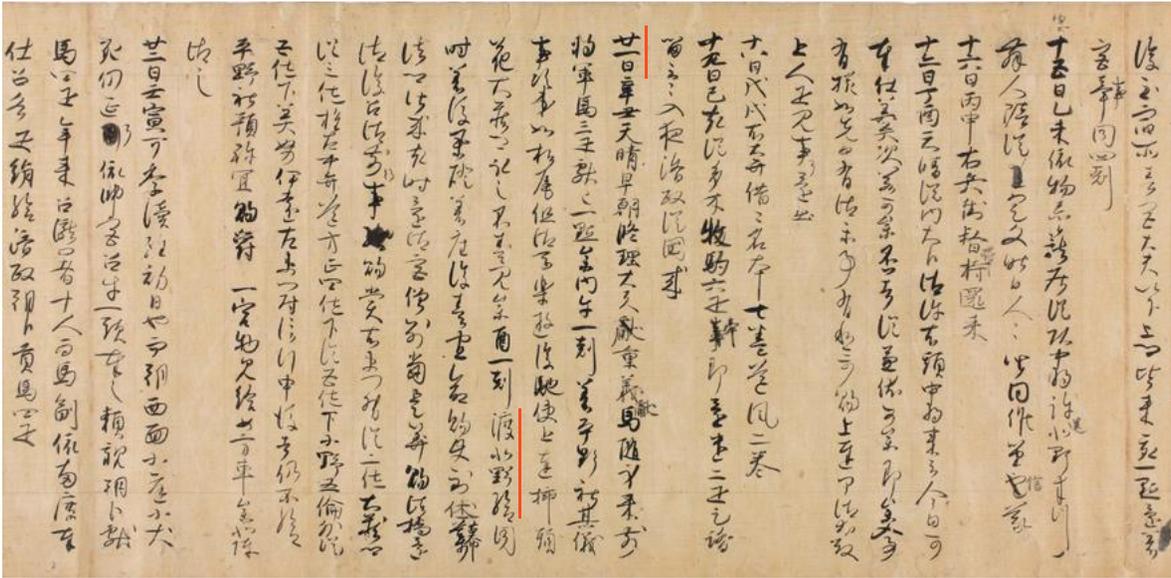
菅公を仰ぎ慕う信仰は、やがて朝野の信仰とともに天神信仰として全国に広がり、さらに天神信仰は学問・至誠・芸能の神として一般にも崇敬されていきました。

この度の寛弘元年一條天皇の行幸始祭の再興は、かかる北野天満宮の創建以来の歴史伝統の再生復興、また全国に鎮座する一万二千社の天満宮・天神社、天神信仰のさらなる発展にとつて最も重要な祭儀の再興であり、御神意の昂揚の好機といえます。



国宝『御堂関白記』 陽明文庫所蔵

寛弘元年（長保六年）（一〇〇四）十月二十一日
 一條天皇北野行幸の段



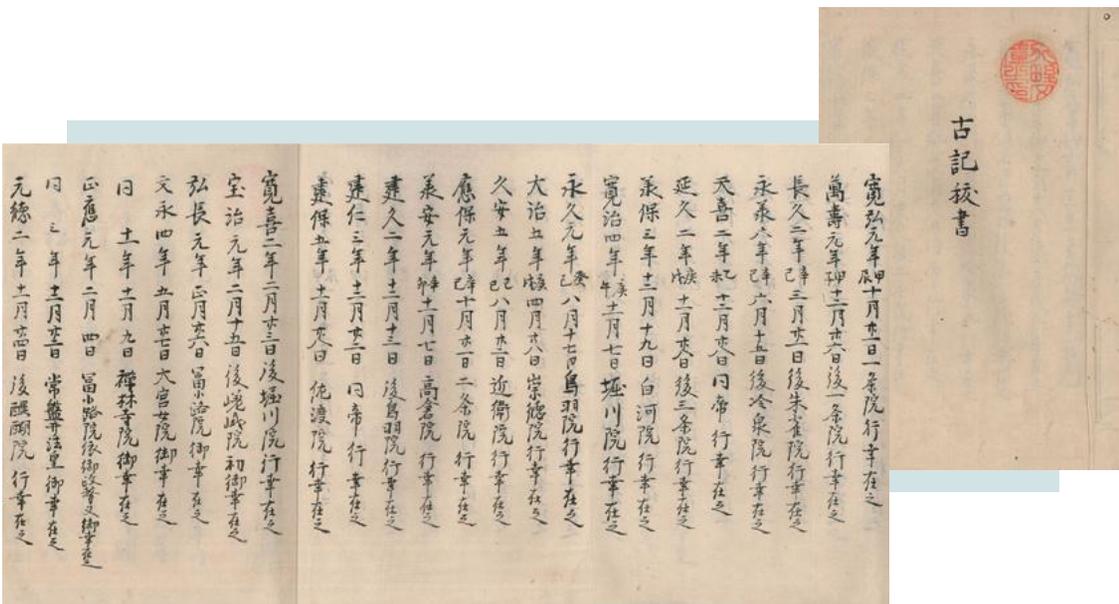
御堂関白記は、平安貴族摂政太政大臣・藤原道長が著した日記。当時の貴族社会を知る上で、貴重な史料である。寛弘元年十月二十一日の段に、一條天皇が始めて北野社に行幸された記事が記されている。陽明文庫は、近衛家伝来の古文書、記録、日記、書状等国宝・重要文化財を多数所蔵し、約二十万点に及ぶ史料を保管している。



天皇行幸の図 国宝 北野天神縁起絵巻（承久本）より

北野天満宮『行幸古記抜書』 北野天満宮所蔵

寛弘元年十月二十一日一條天皇行幸以来、二十数度に亘り北野天満宮に行幸が行われている北野天満宮の記録の抜書。藤原道長の『御堂関白記』の十月二十一日行幸の日記の記述と一致しており、この度の行幸始祭が再興された由緒記録である。



行幸の記録



◆ 社務所前列立

一
條
天
皇
行
幸
始
祭

平
成
二
十
五
年
十
月
二
十
一
日
齋
行



◆ 献饌

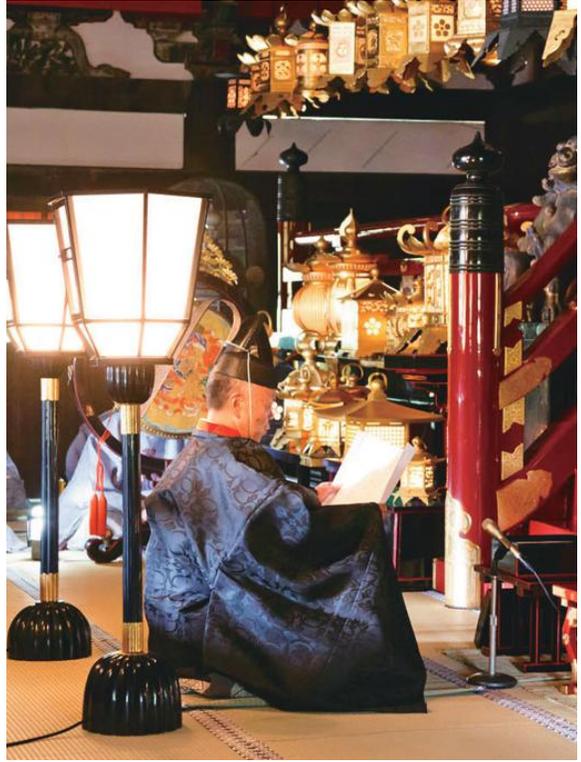


◆ 参進



◆ 本殿祭典

祝詞奏上



一條天皇行幸始祭祝詞

掛麻久母畏伎北野天満大神乃大前尔 宮司 橘重十九 恐美恐美母白左久
 我賀大神乃現世尔坐々志氏波御徳高久御心清久学問乃御才波和漢尔
 巨里氏極米給比五代乃大朝廷尔仕奉里天皇命乃大御依志重久忠々志久
 身母棚知良尔仕衣奉里志賀延喜三年大宰府乃地尔薨去里坐志々後天曆
 元年此乃北野乃地尔神殿乎造営志御心慰米鎮米給衣比氏朝廷乃崇敬篤久
 永延元年北野尔坐須「天満天神」乃勅号乎賜里勅使乎遣波左礼北野祭登志氏
 奉良礼遂尔寛弘元年十月二十一日一條天皇始米氏北野社尔大御行幸
 給比志依里天皇乃行幸二十数度尔巨里奴礼婆此乃行幸始波天神信仰乃
 発揚尔如何尔重儀尔當里加母計里知礼豆其賀御栄其乃御慶乎思出奉里氏行幸始祭
 仕奉里来志賀由久里無久母昭和二十三年乎最終尔絶閉来志波神職主多留者
 思慮志随尔今年波志母第六十二回神宮式年遷宮執里行波礼志佳年尔當里氏
 皇室乃弥栄登国家乃安寧乎祈念奉良久登昔乃手振長久久志久仕奉良乎登須
 故是乎以知氏今日乃生日乃足日尔行幸始祭仕閉奉良乎登藤原撰関家乎始米
 御縁深伎諸人達大前尔参集美御食御酒種々乃味物捧奉里拜奉留状乎平介久
 安介久聞食志氏 天皇命乃大御代乎手長乃御代乃殿御代登常盤尔堅磐尔守里
 給比幸辺給比天下四方乃國民尔至留麻伝五十櫃八桑枝乃如久立榮衣志米給比
 更尔波天神信仰乎弥栄尔張広米志米給比登恐美恐美母称辞竟奉良久登白須

参列者玉串拝礼



平安神宮宮司 九條道弘氏



太宰府天満宮宮司 西高辻信良氏

◎玉串拝礼

宮司

九條撰関家・平安神宮宮司

全国天満宮梅風会会長

・太宰府天満宮宮司

北野天満宮講社社長・裏千家大宗匠

神社本庁総長・石清水八幡宮宮司

公益財団法人陽明文庫理事・文庫長

北野天満宮責任役員

九條 道弘

西高辻 信良

千 文室

田中 恆清

名和 修

中井 宗一

道真公御歌

巫女舞「紅わらべ」奉奏



大阪天満宮の楽師と巫女による奉納

巫女舞「紅わらべ」は平成十四年の御神忌
 千百年大萬燈祭を奉祝し、全国天満宮梅風会
 が企画して作られた神樂舞で、菅公が「あこ
 と呼ばれておられた五歳の時に詠まれた御詩
 「美しや 紅の色なる梅の花
 あこが顔にもつけたくぞある」
 に、元宮内庁楽部長芝裕靖先生が可愛らしく
 作曲・作舞されたものです。

この巫女舞「紅わらべ」は天満宮の重要な
 祭典に際し奉納致し、菅公の御神意をお慰め
 すると共に、更なる御神威の発揚をはかるべ
 く、この度の一條天皇行幸始祭再興に当たり、
 御神前に奉納致します。



皇室と北野天満宮

皇室の御参拝

北野天満宮は、平安時代より北野祭には幣帛が奉られ、官社として皇室より尊崇され、明治四年には官幣中社に列格されました。しかしながら明治以降は瑞饋祭等も私祭となり、戦後は一宗教法人となりましたが、現在でも皇室より特別の崇敬を戴いております。

夏期 二月二十五日 梅花祭

幣帛奉献

冬期

幣帛奉献

彬子女王殿下御神前に「御花神饌」奉献



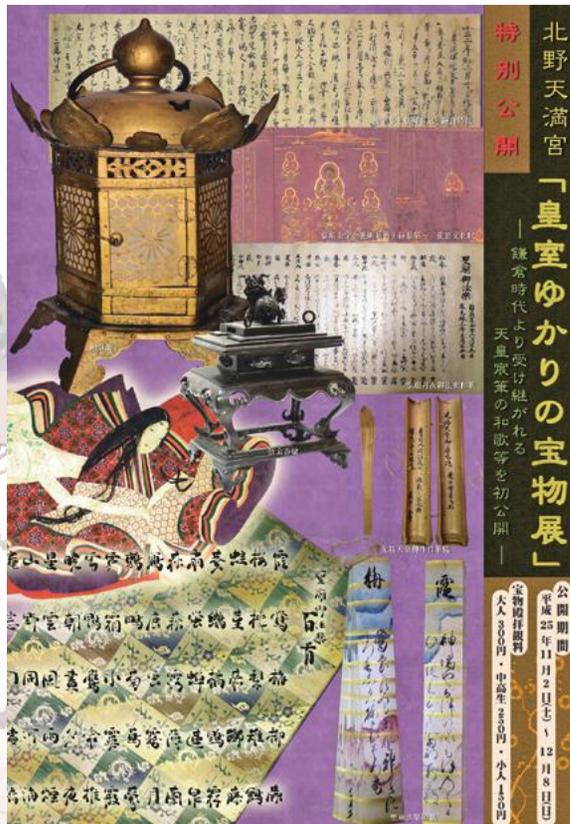
寛仁親王殿下第一女子彬子女王殿下には、平成二十五年四月四日御成りになられ、御本殿に「御花神饌」を奉献されました。

奉献された「御花神饌」は、彬子女王殿下が主宰されています。「心游舎」の活動の一環で、京都の子供たちが紙で作った花の特殊神饌です。祭りが伝え続ける日本の伝統技術を考える子供たちを対象としたワークショップの活動で、北野天満宮にちなんだ、紅花染めの和紙で作られた美しい紅白の梅の花の神饌です。

御本殿に「御花神饌」が供えられた後、彬子女王殿下が御神前に一拝されました。彬子女王殿下には、前年平成二十四年十二月当宮へ初めて御成りになられ、「心游舎」の活動の一つとして大広間において「深谷式辞書引き学習」を開催されました。「心游舎」は、「日本の伝統文化が生き続ける土壌づくり、現代版寺子屋の創設」との彬子女王殿下のお気持ちから設立されました。

特別展「皇室ゆかりの宝物展」開催

前期公開 平成二十五年十一月二日～十二月八日
後期公開 平成二十六年二月上旬～三月下旬予定



北野天満宮は、天曆元年（九四七）、右大臣菅原道真公の御神霊を、北野の地に鎮めたのに始まります。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿は北野社の大規模な社殿の造営、宝物の奉納を行い、北野社は藤原摂関家を守護する神、撰録神せんろくしんとなります。

永延元年（九八七）八月五日、一條天皇により幣帛が奉られ、北野祭は官祭とされ、さらに寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇は初めて北野社に行幸されました。爾来皇室の尊崇は歴代天皇二十数回の行幸に及び、皇城鎮護の神として特別な崇敬を受けて参りました。

皇室の長きに亘る崇敬により、北野天満宮には数多くの天皇ゆかりの宝物が奉納、收藏されています。この度の一條天皇行幸始祭再興を記念し、鎌倉時代から江戸時代に及ぶ皇室ゆかりの宝物、重要文化財二点を含む貴重な品々を公開します。そのほとんどが初公開で、北野天満宮への歴代天皇の崇敬を示す、歴史・文化的にも注目される宝物展です。

重要文化財は、後宇多天皇宸翰「紫紙金字金光明最勝王経」、後柏原天皇宸翰外題「北野天神縁起」（光信本）の二点。また展示作品の種類も金燈籠、御神影、御神号、鳥居額本書、法楽和歌、手鑑、蒔絵文臺硯箱等と多岐に亘っております。



後西天皇御宸筆
「天満宮」勅額

御本殿前の三光門（重要文化財）に掲げられた勅額に書かれた「天満宮」の御宸筆。

和歌の才能に優れ、古典への理解も深く、能書家で知られる後西天皇（一六三八〜一六八五）によって書かれた。

後宇多天皇宸翰
重要文化財「紫紙金字金光明最勝王経」一卷

後宇多天皇（一二六七〜一三二四）は、龜山天皇の第二皇子、名は世仁といい、好学の天皇、仏教に深く帰依した天皇として知られる。国家鎮護。人民安穩のために、書写したものである。見返りに金泥如来の画があり、奥書に永仁二年（一二九四）十一月十五日書写とある。



靈元天皇御寄進

「松竹梅蒔絵文台」・硯箱 一具

靈元天皇（一六五四〜一七三二）は後水尾天皇の皇子、「仙洞様」と呼ばれることが多く、歌道に優れ、歌道関係の著述も多く、歌人能書家。北野天満宮にはその宸翰になる短冊や経巻も伝わる。



初公開 「聖廟法楽和歌」

詩聖、連歌の神、和歌の神と云われた菅原道真公を祀る北野天満宮。室町期、足利義満により明徳二年（一三九一）北野一万句興行、応永元年北野法楽連歌等、度々北野社において連歌が興行されます。江戸期にも、北野法楽連歌が行われ、さらに道真忌年万句奉納連歌が催行されています。

この度の展示は、貞享四年（一六八七）六月から元禄三年（一六九〇）五月まで、毎月二十五日に奉納された靈元天皇の「聖廟法楽和歌」など多数です。「聖廟」とは、菅原道真公の御廟の意で、北野天満宮の異称です。

また、仁孝天皇御製和歌、また後西天皇、桜町天皇、桃園天皇など、歴代天皇の聖廟法楽和歌短冊が公開されます。

※ 出品リストの初マークは初公開

初	御神号	後深草天皇宸翰	鎌倉時代
	紫紙金字光明最勝王経巻第一	後宇多天皇宸翰（重要文化財）	鎌倉時代
初	後宇多上皇御幸記	—	鎌倉時代
初	詩歌巻	伝光嚴天皇宸翰	南北朝時代
初	御神号	称光天皇宸翰	室町時代
	光信本北野天神縁起	外題後柏原天皇宸翰（重要文化財）	室町時代
初	御神号	後奈良天皇宸翰	室町時代
初	御神号	後陽成天皇宸翰	安土桃山時代
初	後陽成天皇御製五首和歌	後陽成天皇御製宸翰	安土桃山時代
初	御神号	後水尾天皇宸翰	江戸時代
初	手鑑	東福門院（後水尾天皇中宮）奉納	江戸時代
初	御神影	明正天皇宸翰	江戸時代
初	御神号	後光明天皇宸翰	江戸時代
初	中門額本書	後西天皇宸翰	江戸時代
初	金燈籠	後西天皇奉納	江戸時代
初	金燈籠	靈元天皇奉納	江戸時代
初	唐金香爐	靈元天皇奉納	江戸時代
初	聖廟月次御法楽和歌	靈元天皇奉納	江戸時代
	蒔絵文台硯箱	靈元天皇奉納	江戸時代
初	習作	伝靈元天皇宸翰	江戸時代
初	漢和聯句	東山天皇奉納	江戸時代
初	御神号	東山天皇宸翰	江戸時代
初	桜町天皇御製十五首和歌	桜町天皇御製宸翰	江戸時代
初	東鳥居額本書	青蓮院尊真親王（桜町天皇皇子）筆	江戸時代
初	聖廟法楽和歌	光格天皇御製	江戸時代
初	聖廟法楽和歌	仁孝天皇御製	江戸時代
初	光格天皇御作竹茶杓	玄々斎精中	江戸時代



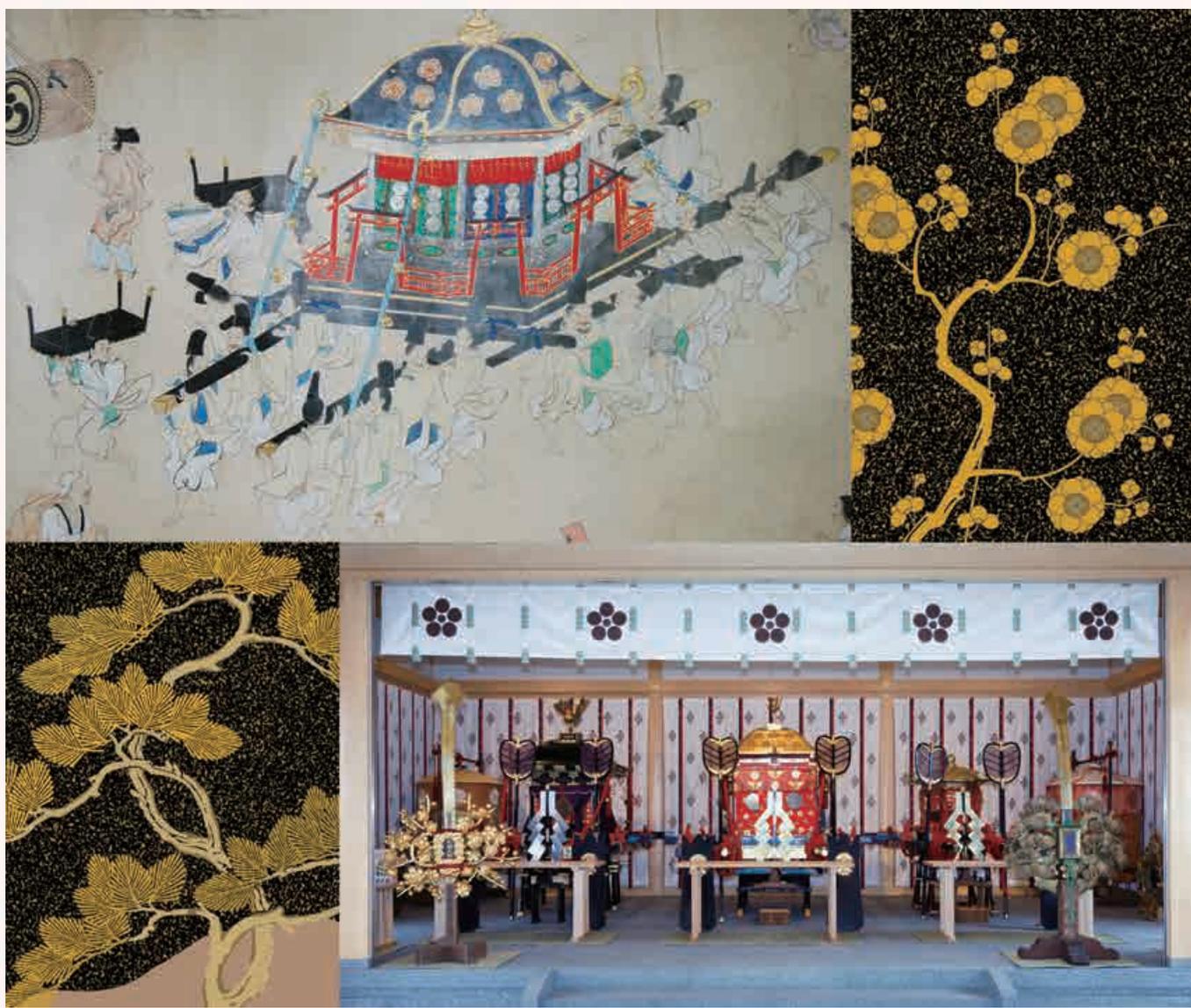
北野の「三年一請会」と 禁裏駕輿丁

永延元年（九八七）八月五日、一條天皇により始めて北野祭は朝廷の崇敬をうけ勅祭として斎行された。この北野祭は村上天皇の御代（九四七、九六七）より始まったとされ、祭祀は朝廷の指示により御輿は禁裏の駕輿丁により担がれ、儀式は世にも希な荘厳なものであった。また大藏省の役人が神宝持ちを奉仕、三年一請会と呼ばれ、三年に一度大藏省によって修繕・注進が行われた。平安後期においては、八月一日神輿迎え、四日還幸という式日の御旅所祭祀が成立した。中世以降、北野祭は朝廷の祭祀の要素が減少、西ノ京の地域的祭礼へと割合が高まり、禁裏駕輿丁は芋茎神輿の駕輿丁と交替された。現在は、十月一日から四日の瑞饋祭と一体化し神輿渡御が斎行されている。

この瑞饋祭は、一名「おいで祭」とも称され、菅公の新たな神霊を毎年お迎え、遷座する祭として重要な祭である。



一條天皇御寄進の葱華輦



第一鳳輦（中央）は村上天皇の御寄進、葱華輦（右側）は一條天皇御寄進

京都大学名誉教授 上田 正昭



北野天満宮 宮司 橘 重十九

平安京と天神信仰

平安京

千年の都、日本文化の中心

橘宮司 それでは、宜しくお願いたします。まず平安京についてお伺いいたします。

桓武天皇が長岡京より、山背の地に平安京を遷都・造営されたのはどういう理由、どういう意図があったのでしょうか。

上田先生 桓武天皇は平城京で即位され、長岡京・平安京へと遷都された三都の天皇でした。

桓武天皇は延暦六年の詔で「水陸の便あり。都を長岡に建つ」と述べられています。延暦四年の九月の造官長官藤原種継暗殺事件、早良（さわら）親王の流罪と無実を訴える死などのほかに、洪水があつて被害がありました。加えて和氣清麻呂公が進言されているように、「十年を経て」都が完成しないで、費用が莫大になったことが、平安京遷都の理由と考えられます。

平安京は四神相応の地であり、北が高く南が低い、天子南面の地形

にふさわしく、延暦十三年十二月二十八日の詔では「山川も麗はしく百姓の参い出で来る事も便にして」と記されています。

橘宮司 平安京の名称と「平安楽土」の意味、またなぜ平安京は地名でない名称がつけられたのですか。

上田先生 延暦十三年十一月八日の遷都の詔で、都を「平安京と曰ふ」と明記されています。平城京とか長岡京とかは史料などにみえる都の名称で、遷都の詔で命名されているのは、平安京だけです。

延暦十四年の正月十六日の宴で、踏歌が歌われ「新京楽、平安楽土、万年春」とことほがれます。

平安京は平らで安らかであり、永遠に榮えあれの意味で、「平安楽土」に平安京の名称は由来します。

橘宮司 平安京が日本文化の中心として、また都として千年続いた理由はなぜでしょうか。

上田先生 平安京は延暦十三年から明治元年の十月十三日に江戸城が皇居となるまで千年をこえる都となり

ます。世界でも珍しい長い歴史をもっています。

平安京は唐の長安と洛陽をモデルにしましたが、国際性が豊かで、王朝の文化・社寺の文化・武家の文化・町衆の文化という多様性を保有し、伝承のまちではなく、常に古くとしても新しい文化を創造してきた伝統のまちでした。

橘宮司 平安京と神社仏閣についてお話しください。

上田先生 朝廷を中心に重要な社寺が造営されました。全国でも勅使の参向される神社が多く、各宗派の本山が集中しているまちです。護王・護国の社寺が平安京に誕生するのは、平安京が千年をこえる都であったからです。

怨霊信仰

御霊信仰、御霊会の流行

橘宮司 平安京では御霊信仰・怨霊信仰が流行し、また御霊会が行われましたが。



上田先生 御霊信仰は貞観五年の平安京神泉苑で、早良親王ほか六人の怨霊を祭神とした御霊会が初見です。

貞観十一年の祇園御霊会や天慶五年のころからの北野御霊会などが有名です。御霊会は都市からはじまりますが、疫病などを遷却する鎮魂のま

つりです。

橘宮司 天神が祀られており、また雷神が祀られていた北野の地に、怨霊である菅原道真公の神霊を祀り北野天満宮が創建された経緯についてお聞かせください。



上田先生 平安時代の記録である『西宮記』巻七の裏書には、北野天満宮

以前に天神や雷神が祀られていたことを記していますが、菅原道真公がなくなつて約二十年後の延喜二十三年の三月に皇太子保明親王が急死されます。世間の人々は「菅師霊魂のなす所」と申しました。

同年四月、道真公は本官（右大臣）に復され、正二位が贈られます。

天慶五年の七月多治比文子に神託があつて道真公を祀り、天曆元年の三月にも近江の太郎丸に託宣があつて、天曆元年六月に北野天満宮が創建されます。

皇城鎮護の神へ

怨霊神から皇城鎮護の神

橘宮司 人を祀つた北野社が朝廷より官祭、北野祭として祀られたのはなぜでしょうか。

上田先生 永延元年に皇太后宮の典侍に神示があり、同年の八月五日勅祭として北野祭が斎行されました。一條天皇は圓融天皇の第一皇子で七歳で即位されますが（在位二十六年）、

北野天神に対する信仰はきわめて篤く、正暦四年に左大臣正一位、ついで太政大臣を贈られます。

一條天皇の「朕が人を得る。延喜(醍醐天皇)・天曆(村上天皇)に勝れり」の勅言は有名です。

橘宮司 一條天皇が寛弘元年初めて北野社に行幸されたことについてお聞かせください。

上田先生 永延元年の勅使の宣命に「天満宮天神」とありますように、一條天皇の北野社への崇敬は深く、正暦二年には伊勢・石清水をはじめとする十六社に加えて、祈雨のため北野・廣田・吉田の三社を加えられたのを見てわかります。さらに白河天皇の永保元年に二十二社となります。



橘宮司 皇城鎮護の社として両賀茂社、また比叡山延暦寺等があるなかで、あらたに北野社が皇城鎮護の社とされたのはなぜでしょうか。

上田先生 延暦寺や両賀茂社は平安京の良(うしろ)ら(東北)の方向に位置していましたが、北野社は平安京の乾(いぬい)(西北)に鎮座し、平安京を守護する皇城鎮護の社として重視されました。

北野天神がたんなる怨霊神でなかったことは永延元年に官幣の社となり、勅祭として北野祭が斎行されているのにも明らかです。したがって一條天皇のあと後一條天皇をはじめとする歴代天皇が二十数回行幸されました。

橘宮司 人・菅公が怨霊となり、慰撫され祀られることにより、天神・神となることについてどうお考えですか

上田先生 菅原道真公を讒言した藤原時平の一門の人々があいついで死去し、延長八年の六月に清涼殿に落雷があったのは、道真公の怨霊の仕業とする風説がたかまります。その

ミタマを鎮魂して、そのご神威によって神徳をうけるために天満天神としてまつるようになります。



橘宮司 怨霊・御霊から学問の神へと、どう変化していったのでしょうか。

上田先生 寛和二年の慶滋保胤(よししげやすたね)の願文に「天神を以て文道の祖・詩境の主となす」とあるように、十世紀のころからは学問の神とされ、さらに書道の神、そして連歌・茶の湯・歌舞伎など、ひろく芸能の神としてあおがれるようになります。

橘宮司 京都人に「天神さん」と親しまれる由縁はどこにあるのですか。

上田先生 菅原道真公がなくなったのは延喜三年の二月二十五日でした。したがって毎月の二十五日は北野さんの日として京都の人びとに親しまれてきました。江戸時代の寺子屋で



も、江戸では孔子を祀りましたが、京都の寺子屋では菅原道真公を祀つた例が多くあります。

橘宮司 天神信仰についてお聞かせください。

上田先生 天神さまといえば北野天神をはじめとする菅原道真公を多くの人々は連想しますが、中国の「天神・地祇」の天神は日・月・星辰などの文字どおりの天上の神の信仰もあれば、七世紀後半の天武天皇代に明確

となった「天つ社」・「国つ社」の高天原や皇室ゆかりの天つ神の天神も
あります。そして雷雨神を天神とし
て祀っている社も存在します。しか
し日本の天神信仰の中心は菅原道真
公です。

橘宮司 天満宮の中門は三光門と呼
ばれています。天体を運行する太陽
と月と星の三つの光が彫刻されてい
ます。後西天皇の「天満宮」の扁額
が掛けられ、大極殿の北に位置した
天満宮の上には、北極星が輝き天子
が拝していたといわれています。こ
こ北野には道真公が祀られる以前に
天神地祇・雷神が祀られておりま
した。平安京にとって北野の地は神
を祀る重要な地であり、そこに道真
公の御神霊が鎮められ天神信仰が始
まったといえます。

平安京の天神信仰が全国に流布し
たわけはどこにあるのでしょうか

上田先生 日本の中心である首都平
安京での北野御霊会における天神信
仰は、都から各地へとひろがって
いきます。

そして怨霊のミタマを鎮めるので
はなく、そのご神威によって生命力

を振起すミタマフリの鎮魂へとたか
まっていきます。

橘宮司 天神信仰における、北野天
満宮と太宰府天満宮の関係について
どうお考えでしょうか。

上田先生 太宰府へ大宰府権帥とし
て左遷された道真公は延喜三年二月
に五十九歳でなくなります。そして
延喜五年八月十九日に、祠廟を造営
したのが太宰府天満宮です。北野天
満宮は道真公の怨霊を鎮魂して神徳
をおおぐために創建されました。



橘宮司 京の秋祭の先駆けといわれ
る瑞饋祭（ずいきまつり）が、十月
一日から五日にかけて行われます。

十月四日には、御旅所より本社への
還幸が行われます。

この祭典は村上天皇の頃より始ま
るといわれ、一條天皇永延元年八月
五日（後に八月四日になる）、この渡
御の式を官幣をもって行われるよう
になり、いわゆる北野祭と称せられ
たものです。

現存渡御する一基の御鳳輦は、村
上天皇の御寄進になるものといわれ、
この御鳳輦にお遷しされた御霊代（み
たましろ）は、十月四日威儀を正し
た行列に多くの供奉者に護られて西
の京の御旅所より本社へと進まれま
す。

この事につき先の宮司は、御祭神
が御鎮座になられるさまを表現した
意義深い祭儀である「おいでまつり」
と述べられています。すなわち、御
祭神の神霊を、大宰府の御墓所より、
毎年新たに北野の地にお迎えする、
御鎮座なされる様を毎年再現して執
り行われるということ、非常に深
遠な意図があります。年々再現する
ことよって生々とした新しい活力
が生まれ、いわゆる御神徳の生成発



展が行われるのであります。

三年一請会と呼ばれ朝廷によつて
祀り続けてきました北野祭は、いま
瑞饋祭として伝えられています。

上田先生 瑞饋祭には、そのような
言い伝えがあつたのですね。

橘宮司 はい。怨霊といわれた菅公
の神霊が時間をかけ、年々丁寧に祀
られることにより、荒魂より和魂、
すなわち菅公の徳分である学問の徳、
学問・文道の神また至誠の神へと変

貌していったのが北野の天神信仰です。京の都、朝廷の崇敬はもとより、貴族・僧侶、さらに武家・一般庶民と様々な人々を介して全国へ広がっていききました。

では、最後になりますが、北野天満宮についてまとめのお話をお願いいたします。



上田先生 平安京でたかまつて全国にひろがった天神信仰の中心の社は北野天満宮です。

天満天神信仰発祥の地であり、総本社であるといわれる所以だと思います。

橘宮司 大変有難うございました。



上田正昭先生 略歴

昭和二年四月二十九日生まれ、京都府出身。京大文学部史学科卒業。歴史学者、京大文学博士。京大名誉教授、島根県立古代出雲歴史博物館名誉館長、京都府亀岡市鎮座 延喜式内社小幡神社宮司(神職身分特級)。平成十三年一月宮中歌会召人に選任、平成十五年四月勲二等瑞宝章を受章。

著書…『古代伝承史』(塙書房)、『上田正昭著作集全八巻』(角川書店)、『私の日本古代史上・下』(新潮選書)等単著七一冊、監修・編共著『日本文化の創造』湯川秀樹共著(雄渾社)、『古事記の新研究』編(学生社)ほか五八二冊。



未完の『北野天神縁起絵巻』平成の復元・白描下絵の彩色

「北野天神縁起絵巻」八巻は、現存する多数の北野天神縁起絵巻のうちの最古作で、「根本縁起」または制作年代から「承久本」ともいわれる。御祭神菅原道真公の生涯と、死後怨霊と化してからの活躍を描く第六巻までは、詞書をともなうが、日藏上人が鬼神と六道巡りをする第七、八巻は詞書を欠き、これに続く北野社草創と靈験の部分は白描下絵のまま未完に終わっている。

料紙を縦長に継いだ大型の紙面に、余白を残すことなく各場面がダイナミックに描かれており、人物の表情は、写実的な似絵風で、各人のさまざまな感情が表現され、物語の内容をよりいっそう豊かにしている。

「北野天神縁起」の内容は、一、祈願文 二、菅原道真伝記 三、怨靈活躍 四、道賢冥途記 五、北野社草創 六、靈験利生譚の六つに大きくわけられる。この『北野天神縁起絵巻』では一から三の部分の第一巻から第六巻までに描き、四の「道賢冥途記」を描くはずの第七、第八の両巻が六道絵にすりかわって、未完の形になっている。しかし六まで描く予定だったことは、北野社草創の場面と靈験利生譚の一部を描いた白描下絵の残されていることでもわかり、この白描下絵は、つぎあわされて第九巻として一巻にまとめられている。

この度、学術研究者、美術関係者等により研究委員会を組織発足、第九巻としてまとめられている未完の白描下絵を基礎資料として、建久本、建保本北野天神縁起等を元に研究調査、検討を開始した。行幸始祭の記念として完成される平成本「北野天神縁起絵巻」は、北野天満宮の創建、利生譚が加えられ、復元本が完成することによって、更なる天神信仰の宣揚に寄与することが期待される。



巻九（部分）





北野天満宮千百年 大萬燈祭の記録

御祭神菅原道真公

悠久のご神慮を景仰して



大萬燈祭を迎えるにあたって

千百年大萬燈祭奉賛会 会長 千宗室（現千玄室）

北野天満宮 宮司 梶季嗣（現北野天満宮名誉宮司）

北野天満宮は「北野の天神さん」と称され、学問の神様として崇敬の篤い菅原道真公をお祀りする、全国一万二千社余りの天神社及び天満宮の宗祀のお社であります。

古来より菅公ご昇神後五十年ごとに「大萬燈会」または「大萬燈祭」と称する、最も重要な大祭をとりおこない、天神様のお心をお慰め申し上げるとともに、ご神徳の益々の発揚をお祈りするため数々の奉祝記念行事を行って参りました。

平成十四年は菅公ご昇神より千百年にあたり、本殿をはじめとする社殿の修復及び境内地の整備や諸施設の充実を図りつつ、後世に向けてさらなる天神信仰の発揚を念じ、創建以来連綿と続いてきた伝統を次代につないでゆく所存でございます。

なにとぞこのよき春に、天神信仰のふる里である北野天満宮にご参詣の上、現代にも脈々と受け継がれる菅公の「至誠」の教えにふれて戴きますようご案内申し上げます。

（抜粋）



石碑除幕式

史跡 御土居の紅葉

菅原一家今日庵
北野天満宮精進社 会長
千 玄室 謹書

千玄室揮毫 石碑

平成十九年十月吉日
史跡御土居の紅葉公開記念之連



大萬燈祭奉賛会解散

天満宮講社発会、御土居整備始まる

◆天満宮講社による御土居整備

平成十四年春、御祭神の御神徳を讃え御神威をお慰めする為、盛大に執行された千百年大萬燈祭の閉幕に伴い、大萬燈祭奉賛会（会長千玄室）は平成十五年三月に解散したが、北野天満宮のさらなる御神徳の発揚と天神信仰の発展を期し、奉賛会の組織を発展的に継承して同時に千玄室氏を会長として北野天満宮講社が発会した。

第一回の講社大祭が、七月五日午後一時より御本殿で千玄室会長はじめ、神社役員、講員約五百五十人が参列の上行われた。

講社の事業として、菅公とご縁の深い紅葉を増やし、春の梅と対照的に秋は紅葉の名所にと、史跡御土居の整備と「御土居もみじ苑」の開苑を計画、樹林計画を進めた。四年間に二百五十本（五種類）のもみじを植えるとともに、往古、紙漉きに使われた紙屋川の清流に朱塗りの鶯橋（長さ十メートル、幅三メートル）を架け、また川をまたいで遊歩道も整備された。

平成十九年十一月十四日、完成奉告祭に引き続き、千会長の揮毫による「史跡御土居の紅葉」の石碑の除幕式が千会長らによって行われ、十五日より御土居もみじ苑が一般に公開された。



講社大祭



秀吉御土居石組暗渠
(悪水抜き 取水口)



秀吉御土居石組暗渠 (悪水抜き 排水口)

◆御土居整備事業報告

史跡御土居の保存整備のため、文化庁、京都府、京都市、学識経験者等により、北野天満宮史跡御土居保存整備委員会が組織された。

史跡御土居の保存・整備につき会議が行われ検討され、京都大学所蔵の江戸期の古絵図を史料とし、境内の史跡の発掘調査が実施された。その結果、御土居としては唯一の石組暗渠、悪水抜きの取水口と排水口が両方発見され、貴重な遺構として注目をあびている。

「史跡 御土居の変遷」

昭和四十年 「史跡」に指定

昭和五十六年度の境内整備の一環事業として

「史跡 御土居」の復旧整備工事に着手。

野面石積み工事をはじめ、四十二段の階段工事、フェンス工事、橋台架け替え工事、漏水防護工事等を完成。

本工事をもって、「史跡 御土居」の維持保護が行われると同時に、一般参拝者の通行路としての危険性もなくなった。

平成十四年 千百年大萬燈祭に際し、境内全域の整備事業に着手。

参道全般、石畳など

平成十六年 千百年大萬燈祭境内整備事業を引き継ぎ、

「史跡 御土居」整備事業五カ年計画に着手。五年間に亘り紅葉の植樹。

(現在、総本数二五〇本)

紙屋川の清掃事業、鶯橋の設置、遊歩道の整備、舞台の設置など行い、平成二十年をもって整備完了。

平成十九年 「史跡 御土居」もみじ苑開苑。

平成二十年 もみじ苑夜間ライトアップ開始。

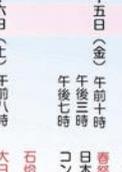
LEDライトの導入や境内全ての石燈籠・釣り燈籠にお照明を灯し、環境に配慮したライトアップ。



主な神事・奉納行事のご案内

平成十四年三月 大萬燈祭祭典並行事表

六日(水)	午後十時 大万燈祭 平安夜祭会 午後二時 大万燈祭 神明奉納会 皆燈講
七日(木)	午前八時 大万燈祭 御茶室奉納行列(保安奉納 献茶祭保存会) 午後九時半 大万燈祭 御茶室奉納行列(保安奉納 献茶祭保存会) 午後二時 大万燈祭 京都御茶室奉納会 皆燈講
八日(金)	午前八時 大万燈祭 献茶祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
九日(土)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十日(日)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十一日(月)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十二日(火)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十三日(水)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十四日(木)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十五日(金)	午後三時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後七時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十六日(土)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後三時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後七時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十七日(日)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後十時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後二時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後六時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十八日(月)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後三時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納
十九日(火)	午前八時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納 午後三時 大万燈祭 奉納家系奉納 奉納家系奉納



★夜間特別参拝
(境内ライトアップ) 二十三日・二十五日
二十三日(土) 午後八時
二十三日(土) 午後九時三十分迄
二十三日(土) 午後十時
二十三日(土) 午後十一時
二十三日(土) 午後十二時



二十日(水) 午前八時
二十日(水) 午前十一時
二十日(水) 午後八時
二十日(水) 午後十一時
二十日(水) 午後十二時



二十一日(木) 午前八時
二十一日(木) 午後八時
二十一日(木) 午後十一時
二十一日(木) 午後十二時



二十二日(金) 午前八時
二十二日(金) 午後八時
二十二日(金) 午後十一時
二十二日(金) 午後十二時

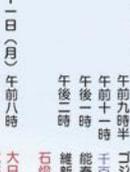
五十年ぶりの大修復工事の足跡

流れるように美しい曲線、目にも鮮やかな刃物の切り口、椀皮葺の西に延び、東に走る棟が美しい大屋根、大屋根のうねりを彷彿とさせる。平成八年以来、進められた修復工事は滞りなく終了した。

又、五十社にわたる根末社の修復工事は、平成十一年春から順次行われ、お社は見違えるほど美しくなりました。共通して傷みが目立つのは屋根の部分、葺き替えたのはほとんどが銅板葺きです。本殿とつながってお社が小さいので、屋根の勾配も急で、曲線部分が細くなるため、技術的にもむづかかったという。

○記念宮務事業の概要

- ※国宝本殿 拝殿・中門御屋根葺替 飾り金物修理 並びに仮拝殿・仮授与所新築・造園改修工事
- ※宝物殿改修工事
- ※吊燈籠・石燈籠改修工事
- ※参道石畳葺替並びに境内全域排水路改修工事
- ※吊燈籠・街灯等照明設備並びに防犯設備増設工事



蘇った御屋根



朱の漆も鮮やかに



本殿御屋根葺替え工事

厳肅なる遷座祭並びに奉幣祭

本殿遷座祭は平成十三年四月二十九日午後七時から斎行され、真白い絹垣に覆われた、飯殿から本殿までの約数百メートルの御幸路を、ご祭神は牛の曳く御羽車に乗り、静かにお遷りになった。

翌三十日午前十時から行われ、天皇陛下下幣料の高札が掲げられた祭場には、前夜の遷座祭を超える約千人の崇敬者が参列した。



修復された本殿より中庭を見下ろす



浮かび上がる遷座行列



宮司祝詞奏上

北野天満宮神宝展

御祭神菅原道真公千百年大萬燈祭記念北野天満宮神宝展(全国天満宮梅屋敷会主催)京都国立博物館・京都府立博物館・北野天満宮共催が平成十三年四月十日より五月十三日まで、京都国立博物館で開催され好評を博した。開館されたのは、内外不出の国宝北野天神像(絵巻本)を初め、私藏本「光起本」など、源氏物語(近衛信俊)菅家文章、重文・昌俊(伊藤)等、長谷川等伯筆、重文・太刀ほか約四百四十点。金沢名工宝篋は、平成十四年に、

北野天満宮神宝展

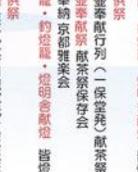
- 平成十三年 四月十日～五月十日 京都国立博物館
- 平成十四年 四月二十七日～八月七日 名古屋市立博物館
- 平成十四年 七月二十七日～八月八日 石川県立美術館

天神さまの美術展

- 平成十三年 七月十日～八月六日 東京国立博物館
- 平成十三年 九月十三日～十月五日 福岡市博物館
- 平成十三年 十一月二日～十二月九日 大阪市立美術館



千原祭・御屋根葺替



千原祭・社務所前



千原祭・楼門前

北野天満宮神宝展 宝物を一挙公開

歴史に刻まれた大萬燈祭

百年前の老千百年大祭は明治三十五(一九〇二)年、本殿御屋根の修復工事は明治三十三年(一九〇〇)年、同三十五年二月に完了。一年七月ですべての作業を済ませている(平成の大修復は三年と五月を要した)。

大祭は三月二十五日より五月十三日まで、の五十日にわたるその間午前五時三十分から午後九時三十分まで、終日点灯された燈明はのびのびと燃え、日英同盟の成立したこの年は、日露戦争の前夜でもあった。



千原祭・御屋根葺替



千原祭・社務所前



千原祭・楼門前



御挨拶

北野天満宮宮司 橘重十九



まずは、皇室の御安泰と世上のご安寧を心よりお祈り申し上げます。
本年、第六十二回神宮式年遷宮の年にあたり、十月二日皇大神宮、五日豊受大神宮におかれまして遷御の儀が厳粛に行われましたこと、慶賀の極みと存じます。

さて、この度当宮では、六十有余年途絶えておりました当宮創建以来の由緒歴史にとつて重儀であります「一條天皇行幸始祭」を再興出来ましたこと、心より感謝御礼申し上げます。

この祭儀の再興につきましては、宮内庁、神社本庁をはじめ、京都府神社庁、全国天満宮梅風会、神社界関係各位のご助力を賜りました。

とりわけ菅公薨去より国都平安京に於いて、百年の歳月をかけ誕生しました天神信仰の発展におきまして、北野社を皇城鎮護の神として尊崇された藤原摂関家の流れを受継がれる平安神宮宮司九條道弘様、菅公を茶聖と讃え崇敬され、四百数十年間伝統を継承、常に日本文化の中心にある千利休所縁の裏千家大宗匠千玄室様、平安初期に京都に創建された八幡信仰・八幡宮の代表的神社の一つである石清水八幡宮宮司田中恆清様、当宮と共に全国天満宮の宗祀と称される太宰府天満宮宮司西高辻信良様には、並々ならぬ御尽力を頂き、更に記念特集発行に際し玉稿を戴きましたこと、重ねて御礼申し上げます。

一條天皇には、永延元年八月五日北野社に幣帛を奉られ、始めて北野祭を朝廷の行う官祭として斎行され、「北野天満大自在天神」の称号を賜りました。

さらに寛弘元年十月二十一日、一條天皇始めて北野社に行幸されましたことは天皇の臣下菅原道真公を御祭神とする神社にとつて異例のことです。以降平安時代に二十数度に亘り歴代天皇の行幸が行われ、北野社は祈年祭、臨時祭に預かり、皇城鎮護の神、国家護持の神として崇敬されてまいりましたことは、天満宮の歴史にとつていかにこの行幸始祭が重大な出来事であったかを推察されるものです。

この度の祭儀再興により、往時を偲び、一千百年を超える伝統を護り伝えて参りたいと存じます。

現在、菅公の御神霊を祀る北野天満宮（総本社）は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、篤く信仰されています。

ここに「一條天皇行幸始祭」の再興に際し、御神恩に感謝いたしますと共に、永く天神信仰の伝統を受け継ぎ、天神信仰の昂揚と発展に努めてゆく所存であります。

最後に、皆様方の御厚情に、心より感謝御礼申し上げます。





天満宮

北野天満宮「臨時会報」

〔発行日〕平成二十五年十一月一日

〔発行元〕北野天満宮

〒六〇二―八三八六 京都市上京区馬喰町

電話 〇七五―四六一―〇〇〇五

<http://kitanotemangu.or.jp/>